

大谷學報

第九卷 第一號

昭和三十三年二月十五日發行

六祖壇經に關する二三の意見

鈴木大拙 (一)

西山土人の佛教觀

安井廣度 (一九)

聖提婆に歸せられたる中觀論書(承前)

「智心髓集に提示せられたる、毘婆沙師、經量部、
瑜伽行派及び中觀派諸教學の要略」

山口益 (三三)

智光の淨土教思想に就いて(下)

戸松憲千代 (六六)

出羽名義考

佐々木求巳 (七六)

覺如上人假名聖教用語の研究(三)

藤谷一海 (三三)

泰西人の日本語研究書目録

大谷大學圖書館 (一)

新刊紹介(四) 研究室彙報(四〇) 寄贈圖書雜誌目録(五四)

昭和十二年度大谷學會決算書(五四)

大谷大學

大谷學會

大谷學會々則

第一條 本會ヲ大谷學會ト稱シ、事務所ヲ大谷大學内ニ置ク。

第二條 本會ハ佛敎學、哲學、史學、及ビ文學ニ關スル諸般ノ研究ヲナスヲ以テ目的トス。

第三條 本會ノ會員ハ大谷大學敎職員、學生及ビ本會ノ趣旨ニ贊同スル者ヲ以テ組織ス

第四條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ。
一、年四回雜誌『大谷學報』ヲ發行シ之ヲ會員ニ頒ツ。

二、毎年春秋二回公開講演會ヲ開ク。

三、隨時圖書ヲ出版ス。

第五條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク。
一、會長 一名
二、理事 二名
三、委員 若干名

第六條 役員ノ職責左ノ如シ。
一、會長ハ本會ヲ代表シ、委員會ヲ總理ス。

二、理事ハ會長ヲ補佐ス。

三、委員ハ庶務、編纂、會計ノ事務ヲ分擔ス。

第七條 役員ノ任期左ノ如シ。
一、會長ハ大谷大學々長ヲ以テ任ズ。

第八條 二、理事ハ大谷大學學監ヲ以テ任ズ。
三、委員ハ會長ノ指名トシ、任期ハ二年トス。

第九條 會員ハ雜誌『大谷學報』ノ配布ヲ受ケ本會主催ノ會合ニ出席スルコトヲ得。

第十條 會員ハ會費トシテ年額金參圓ヲ納ムベキモノトス。

附則 本則ハ委員會ノ決議ニ依ルニアラザレバ變更スルコトヲ得ズ。
一、本會ハ佛敎研究會ヲ繼承ス。

二、本會ハ本學ニ於ケル佛敎學、哲學、人文學各研究室所屬ノ研究會ヲ統合スルモノトス。

三、本則ハ昭和三年一月ヨリ實施ス。以上

大谷學會役員

會長

理事

庶務委員

編纂委員

朽木 廣覺 宮谷 法合

阿部 現亮 北條 正韶

大須賀秀道 安井 廣度 鈴木 弘

山口 益 徳重 淺吉 大庭米治郎

龍山 章眞 横川 顯正 正木 淨教

兩宮 尙治 野上 俊靜 上村 幸次

北條 正韶

會計委員

吉田嘉一郎

編輯後記

○一月末に發行の豫定だつた本號が、意外にかく半月許りも遷延したことは誠に申譯けがない。これも別冊の分類目錄を同時に御手許に贈らんとした欲張りからである。

○此の間、又赤沼智善教授の訃音に接し、校正了らんとして又々本多主馬學長の逝去に逢ふ。驚愕、心痛、損失これ以上のものはない。昨年より今年にかけて相踵いで如何に數多くの眞宗學匠を失つたことか。編輯子の小さな感傷をいやが上にも煽り立てる。謹んで今はなき諸先生方の御冥福を念ずるのである。

○本號に於て出來得可くんば故小島・赤沼兩教授の追悼號を發行し度いと思つたが、分類目錄に追はれて寧日なく、遂にその時機を逸し、これは故本多學長追悼論文を加へて次號に譲ることにした。

○本號に初めて登場せられた佐々木求巳氏は本學國史料出身、目下東都に在つて御活躍の眞學な學究者である。

○「泰西人の日本語研究書目錄」は、龜田教授の斯界に冠たる所藏珍籍の披展であり、圖書館の御厚意に據り茲に掲載の運びに至つた。この編纂に當つては特に久我主任の御盡力に負ふ所大であつた。記して茲に謝する次第である。

○學會の内外多事多端の折柄、諸賢の御健康に留意あらんことを切望する。

(H)

大谷學報

行發回四年
月十・月七・月四・月

廣告料

表紙裏	普通頁	貳拾圓	拾貳圓
	參拾圓	拾七圓	

會費
定一部賣
價
普通號 金八拾錢(送料六錢)
特輯號 隨宜申シ受ク(送料六錢)

昭和十三年 二月十日印刷
昭和十三年 二月十五日發行

(第十九卷・第一號)

不許複製轉載

編輯者 大谷學會

右代表者 宮谷法含

印刷者 須磨勘兵衛

京都市北小路通新町西入

印刷所 大谷大學出版部

京都市烏丸頭大谷大學内

發行所 京都市烏丸頭 大谷大學内 大谷學會庶務部

電話西陣一六四〇番
振替大阪六七一八五番